

# 防虫ネット被覆ハウスを利用した夏秋キュウリ有機栽培でアブラムシを抑制する天敵バンカー法

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科  
生産環境部作物保護科

## 1 部門名

野菜 - キュウリ - 作型・栽培型、病害虫防除

## 2 担当者

緑川弥寿彦・中村淳

## 3 要旨

夏秋キュウリの防虫ネット被覆ハウスによる有機栽培は、ハウス内へのアブラムシの飛来を防止するが、一旦ハウス内にアブラムシが侵入するとキュウリの被害が拡大する。天敵のコレマンアブラバチが製剤化されているが、8月にアブラムシが増加した場合などは十分な抑制効果が得られない。このため栽培期間を通してアブラムシを抑制する手法としてバンカー法(コムギ・ムギクビレアブラムシ)を用い、導入初期のバンカー管理を改良することによって持続的な抑制効果を認めた。

- (1) 必要な資材は、天敵コレマンアブラバチ製剤(10aあたり1,000頭放飼、1~2回)、代替宿主ムギクビレアブラムシ(約500頭購入)、バンカー植物コムギ(24cm径のポットを1aあたり10ポット準備、ポット用土はキュウリ播種床の残土を使用、有機質肥料を添加)、バンカーの遮光・雨よけ用のシート(防草シートを使用)、バンカー育成用の囲い(防虫ネットで全面を被覆)。
- (2) コムギは、ほ場準備時に、アブラムシ導入までに草丈10cm程度になるようポットに播種し、さらにハウス内の通路等にも列状に播種し、1aあたり3~4か所程度でできるだけ広がりを持たせ配置する。ムギクビレアブラムシは天敵の導入1週間前までにコムギに接種しバンカーとする。コムギの一部を遮光・雨よけしムギクビレアブラムシを保護し増殖させる。
- (3) 別にバンカー育成用の囲いの中のポットで、コムギ上にムギクビレアブラムシを育成しバンカーを追加供給できるように準備する。バンカーは、少なくとも6月は1aあたり2週間おきに2鉢、その後は2週間おきに1鉢など、早い時期にハウス内に追加導入することで天敵の効果が安定する。
- (4) ハウス内に天敵コレマンアブラバチを放飼した直後はバンカー上での飛翔を観察し、定着の目安とする。また、放飼後1週間程度でマミー(アブラムシへ寄生してできる)が発生し、順次新しいマミーができてくることを確認し天敵の活動の目安とする。
- (5) コレマンアブラバチはワタアブラムシ、モモアカアブラムシなどに寄生する。ジャガイモヒゲナガアブラムシなど大型のアブラムシには寄生しないので、別の対策が必要となる(ナミテントウ製剤など)。
- (6) 風雨、高温などでムギクビレアブラムシが増殖しない場合などで効果が劣ることがあるので、コレマンアブラバチを観察し、活動が少ない場合は再導入する。

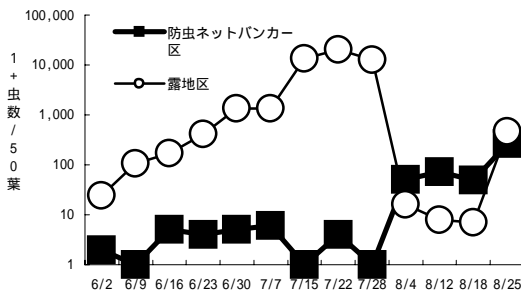


図1 ワタアブラムシの発生推移



写真1 バンカーの状況  
ポットの持ち込みと列状に播種

## 4 主な参考文献・資料

- (1) 平成17年度参考となる成果「防虫ネット栽培キュウリにおける天敵を利用した害虫防除」
- (2) 「アブラムシ対策としての「バンカー法」技術マニュアル」2005年版 (独)近畿中国四国農業研究センター
- (3) 平成18~20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2006~2008)